

WEP

ウェブ俳句通信

VOL. 98

俳句通信

特別作品25句 ● 松岡隆子「水の香」

特集 ● 〈散文的な俳句〉について

一行の力

坪内稔典

「切れ」から「すれ」へ

神野紗希

「切れ」と「間」の力

富田正吉

何故散文的と言われるのか

中山世一

もっとアナーキーに

坊城俊樹

凝縮と拡張

秦 夕美

散文的俳句考

西池冬扇

【実力作家選詠20句】

船越淑子 「桜 狩」

高橋さえ子 「桐の花」

好井由江 「ジンフィズ」

【精鋭作家選詠20句】

柴田佐知子 「雷 鳴」

矢野景一 「流し雛」

滝澤和治 「山楼抄」

● ● ● ● ●

田中水都・下鉢清子・関口孝代・伊藤晴子・栗田やすし・須原和男・徳田千鶴子・
 橋本多岐・山本つばみ・大高露海・穂 紀代・佐藤麻績・戸恒東人・大竹多可志・
 奥坂まや・高瀬恵美子・角谷昌子・加藤美代子・田原白葉・田原公世・藤村たいら・
 関島あきら・新海あかり・原 朝子・矢野玲奈 はか

● ● ● ● ●

先人に学ぶ俳句「三橋敏雄（二）」岸本尚毅

俳句とともに「飯田龍太の風景——井伏鱒二 そのオ」井上康明

新連載 女性俳句を読む「中村汀女 橋本多佳子」小川美知子

新しい詩学のびじまり「伝統的社會性俳句②——大野林火（上）」現世野井

藤田渥子第十句集「神楽」を読む「千曲川」黒澤あき緒

三橋敏雄「眞神」考「動詞多用の独自性」北川美美



雲の旅

名村早智子

水母 (2007)



横ざまに海月流る、潮かな
わが旅の舷の水母のなほ尽きず

高野素十
山口誓子

牡丹 (2007)

牡丹見てをり天日のくらくなる
夜の色に沈みゆくなり大牡丹

日南愛道
高野素十



水の香

松岡隆子

天辺の天辺らしき松の芯
地の息となるまで降り桜葉
はつ夏の水の香へ歩を速めけり
睡蓮の巻葉直立夏に入る
萍や風の押しくる波の数
風の日の波の真中の浮巣かな



A decorative border with intricate floral and scrollwork patterns surrounds the text.

特集

〈散文的な俳句〉 について

「この俳句は散文的ですね」という言葉を句会でよく耳にします。否定的な意味あいでのこの“散文的”という言葉が使われているのは確かです。しかし、何か安易なもの言いに聞こえます。“散文的(ときには切れのない)”と言われる句は、本当にいけないのでしょうか。7人の俳人に思うところをお書きいただきました。

中村汀女 橋本多佳子

小川美知子

■中村汀女

中学校の教師時代、四丁と呼ばれる四人の中で、教科書で一番教えた記憶があるのは中村汀女だ。あはれ子の夜寒の床の引けば寄る、へおの子のなぞなぞあそびきりもなやへ外にも出よ触るるばかりに春の月など。子供や家族への思いを詠んでおり、情景が目につかびやすい。

自分で俳句を作るようになって汀女の私の中の位置づけは上記の三句から余り出ていなかった。つまり幸せな良い家庭の奥さんという印象であり、俳句を文字と思うからには、その円満さを少し物足りなくも思っていたのである。今回ずっと読んでみた。

1 汀女句集（昭和19年）

我に返り見直す隅に寒菊赤し 大正7
朝曇しめやかにかくるはたきかな 大正8
わがふれて来し山の樹や秋深し 大正9
貝殻にはつしと光る涙かな 大正9

以上の句は、汀女が大正7年に17歳で初めて俳句を作り、ホトトギスに初投稿、結婚して故郷の熊本から東京に移り住むまでの作品である。「我に返り」「わがふれて」という表現が初々しい。この後、昭和7年に丸ビルに虚子を尋ねて星野立子に会い句作を再開するまで、10年ほどの句を作らない時期があった。

さみだれや船がおくるる電話など 昭和7
曼珠沙華抱くほどとれど母恋し 昭和7
とどまればあたりにはゆるる蟬かな 昭和7
引いてやる子の手のぬくき置かな 昭和7
路の臺おもひおもひの夕汽笛 昭和7
風鈴のそろはぬ音なれ二つ吊り 昭和8

再び句作りを始めた汀女の作品は、この当時8歳の女の子、6歳3歳の男の子の母としての情愛はもとより、身近な自然と生活を詠んで豊かな叙情性を持つ。蕨の臺の句の「おもひおもひの」がいいと思う。

肉皿に秋の蜂来るロウチかな 昭和8



ゲスト 今井肖子・沖 あき

田山康子・村上喜代子

ホスト 星野高士・藤本美和子

編集部 超結社句会第39回目です。ゲストは「ホトトギス」同人の今井肖子さん、「鷹」同人の沖あきさん。「森の扉」同人の田山康子さん、「いには」主宰の村上喜代子さん。ホストは「玉藻」主宰の星野高士さん、「泉」主宰の藤本美和子さんです。遠慮のない意見交換をお願いします。

高士 点がずいぶんバラケましたね。こういうことはめったにない。では、始めます。4点句が一つあります。

父の日の黒松雀数ちけり **美和子**

喜代子 さっぱりしていて、ゴテゴテしてなくて、それだけに「父の日」が効いていると思いました。

康子 「雀」に対する包容力みたいなものが「父」に通じることかなと思って。それと「父の日の黒松」まではどっしりとした感じなんです。下半分が動きがある。可愛い感じがよかったです。

美和子 いま康子さんが仰ったように、静と動の対照がくつきりしているから、いかにも「父の日」らしいなと思ったんです。でもいまはまだ五月の初めて、「母の日」もまだなの